

第20回

【特別対談企画】

強い弟子の育成が部屋の経営に直結。競争原理が支える大相撲の世界。

大相撲キャスター 銅谷志朗氏

臨場感や感動を伝える仕事

スポーツの実況放送のアナウンサーは、ゲームや試合の局面が変わるところで瞬時、瞬時に言葉を選ぶ判断を求められるので大変ですね。先天的な能力も必要なのではないでしょうか。

中継を担当する機会も多々あり、時には絶叫することもありましたからね(笑)。



います。横綱日馬富士やベテラン安美錦、近畿大学出身の宝富士などの幕内力士が複数いる相当大きな部屋で、ここに移籍したことが大きなプラスになっています。全力でがんばる稽古が出来ますし、稽古相手もいろんなタイプがいるから、力がついてくるわけです。

角界の中では、「相撲道」という言葉をよく使います。相撲は柔道、剣道、茶道、華道などと同じように長い歴史を有しております。私にも講演などで「相撲道から何を学ぶか」というテーマで話をしますが、非常に奥が深いです。

四股、てつぼう、摺り足ですね。そして、ぶつかり稽古。ぶつかり稽古は相当に苦しくて、今の力士はあまりやりたがらないうんです。それよりも、個別のウエイトトレーニングに精を出す力士が増えていきます。でも、ウエイトトレーニングだけでも筋肉が固くなって、いいことがないというベテランの親方は言っていました。



自分の記憶の中では、前の二子山部屋とか、もう閉鎖された三保ヶ関部屋などがそうでした。優秀な社員、すなわち優秀な力士の少ない部屋は、言ってみれば儲からない仕組みです。そういう厳しい競争原理の働くシステムになっているため、部屋の浮沈は親方の指導力が強く左右します。

まあ、慣れてしまえばそれほどでもないのですが、目の前に起きていることを正確に言葉で表現し、テレビやラジオに接しているお客様に臨場感や感動を伝えるという点は確かにスポーツ実況の難しいところだと思います。ですから、アナウンサーの数ある仕事の中で、最終的に残るのは、スポーツ実況だけではないかと私個人は思っています。報道は記者出身のキャスターが随分増えていますが、バラエティ番組やワイドショー番組などの司会は芸能人が今や席巻しています。

偉大な記録ですね。今回優勝すると、区切りとなる三十五回目だったので、三十二回という大きな目標を既にクリアしていたものから、場所中、勝負に向けた心を整えるのに結構時間がかかっていたのではないのでしょうか。体力的にはまだ問題は感じられませんが、相撲の内

白鵬は右四つになって、左の上手を引いて寄っていく、あるいは前へ出てから投げる、これが一番強い時の相撲なのですが、五月場所はちょっと相手をごまかすような感じの取り口が少なくなかった。安美錦戦に限らず、危ない場面がたくさんありました。

一方、優勝した照ノ富士は、度胸がすごいですし、伸び盛りの力士は一晩寝ると強くなるというように、急激に強くなっていますね。彼はもともと間垣部屋に所属していたのですが、二〇一三年に間垣部屋が閉鎖されて伊勢ヶ濱部屋に移って

「道」なら、日本古来の武道や茶道、伝統芸能で受け継がれている「守・破・離」があるわけですね。「守」は自分が信じている(師匠)をまず見習って、その技術の域まで達しましょう。「破」は、その域を超えましょう。そして、「離」は自分の形を作りましょうという意味です。

大相撲でもそうした点は、まったく同じです。稽古をつけてくれたり、世話になった先輩に勝つことを「恩返し」と言います。島さんが今おっしゃられたプロセスを経ないことには、「恩返し」はできません。また、「稽古」という言い方も他の「道」と共通しています。高校や大学のアマチュア相撲では「練習」という呼び方が一般的です。

先ほど、照ノ富士の優勝は伊勢ヶ濱部屋への移籍が奏功した結果とお話でしたが、入門する部屋によって、若い力士が伸びる、伸びないということが現実問題としてありそうですね。

いや、必ずしもそうではありません。弟子の分家・独立を許さない方針を取っていたらある大きな部屋では、師匠である部屋持ちの親方のほかに、部屋付きの親方がたくさんいました。

照ノ富士躍進は部屋移籍が契機

初めてお会いしますが、声にすごく張りがある、響きますよね。

私の場合は相撲が中心でしたが、プロレスやボクシングの

稽古の質を左右

苦労の経験が指導者の礎に

公益財団法人日本相撲協会

お金の仕組みはどうなんですか。

そのコーチがたくさんいる部屋は、いわば船頭が多いわけですから、寄ってたかたて重箱の隅をつつくような指導をバラバラに力士にしています。そのため、逆に力士が伸びなかったように思います。

それから、世間で「天才」と言われた優秀な横綱が、弟子の育

島経営グループ 会長

島 善昭



大相撲キャスター

銅谷 志朗 氏

【Profile】 銅谷 志朗氏 大相撲キャスター

どうや・しろう。1944年東京都生まれ。明治大学政経学部卒業後、山陽放送にアナウンサーとして入社。その後、テレビ朝日に移籍。ニュース、ナレーション、大相撲を中心とするスポーツ実況などで活躍。テレビ朝日系の人気番組「大相撲ダイジェスト」のキャスターを20年間担当した後、91年にアナウンス部副部長からフリーに。各局のスポーツ番組のキャスターやワイドショー、ニュース番組の相撲コメンテーターなどを務め、現在は日本相撲協会内の館内FM放送「どすこいFM」のキャスター。著書は、『大相撲の魅力-相撲アナが語りつくす』（心交社）、『満員御礼！-大相撲なんでも早わかり』（講談社）など多数。

成で成功しているかという、実はそうでもない。

野球と一緒にですね。名選手、名監督にあらず。

例外はあるのですが、体が大きくないなどの理由で苦勞して横綱になった親方は、指導がうまいなと感じます。何故かというと、試行錯誤を繰り返した豊富な経験から、ここをこういう風に直したら、あるいはそこをこういう風に伸ばしたら強くなるよ、といったことを具体的に教えられるのです。

さらに、横綱に手が届かなかった苦勞派の元大関の親方も、自分の夢だった横綱を育てたいという強い意気込みも手伝って、指導というものをよく勉強し、教えるのがうまいですね。

苦勞した経営者はよく伸びると言いますが、それと似ていますね。

経営やビジネスの世界とまったく同じだと思いますよ。

弟子一人あたり二百萬円の支給

すると、企業経営者が大相撲の世界で参考にできるところもありそうですね。

そうですね。いろんな点で競争原理が働いているところでしょうか。日本相撲協会では、実務を含めた運営の大半を元力士の親方衆が担う一方、それぞれが保有したり部屋付きとなっている各相撲部屋の運営にはある程度の自主性と権限、責任が与えられ、部屋同士が競争関係になっていて、部屋レベルでもさうなところだと思えます。さらには、部屋レベルでも力士間の競争があり、場所に入れば十五日間にわたる真剣勝負の競争が続きます。

勝てば儲かる、勝てば番付が上がるという、非常に分かりやすい競争ですね。

土俵の下には宝物が埋まっているという格言もあるように、強くなればお金が入るシンプルな仕組みです。すると、力士は切磋琢磨して横綱や大関を目指すようになる。最高位の横綱になれば後援者もつきますし、テレビのコマーシャルにも出られる。お金が自然と入ってくるようになっていくわけですね。

だから、一生懸命やると。各部屋には、弟子の育成費など複数の名目で幕下以下の力士一人あたり年間およそ二百萬圓が相撲協会から支払われています。師匠は協会からもらう給与のほかに、力士が二十人いれば年間四千萬圓相当の収入が得られる仕組みです。で、弟子がこの二十人いれば採算ベースに合うと言われています。

食べ物にかかる出費は大きいでしょう。

食費だけでなく、光熱費や弟子の医療費まで全部親方が負担しています。ただ、相撲の世界にはタニマチ、後援者がいて、肉、魚、米など食べ物に関しては現物を大量に差し入れてもらっているの、傍から思うほどのお金はかからないようになっていきます。それよりも出費として大きいのは借金の返済です。

返済ということは、銀行からの借り入れですね。そうですね。部屋持ちの親方になるには年寄株を取得する必要があるのですが、その費用は一時期三億圓を超えることもありました。さらに、部屋を新築しようとする一億圓はか

かります。銀行から借り入れをして、晴れて部屋持ちの親方になったら、その返済が待ち受けているわけですね。

多くの、しかも強い力士を育てて、収益を伸ばすようにしないと、大変ですね。育成は死活問題です。

競争原理が働く中で、部屋の衰退もあれば、伸びるところもある。その上に日本相撲協会があり、安定を保っています。そういう面白さが大相撲にはあるわけですね。

輝に寄せられる期待は大

最後に、石川県出身力士について、銅谷さんの見解を聞かせてください。まず、高木（金沢市出身）はどうでしょう。体重が二百キロくらいある巨漢で、五月場所は幕下で全勝しました。七月場所ではいよいよ十両です。

彼は拓殖大学出身の力士です。これからは十両を迎えるわけで、正直なところまだ海のものとも山のものとも分りません。体は確かに大きく、強いには強いのですが、ちょっと太り過ぎかな。将来性は感じられますので、今後に期待というところですね。

次に、輝（七尾市出身）はいかがでしょう。五月場所は西十両四枚目で、八勝七敗の成績でした。彼は我々相撲記者の間でも、今後を強く期待されている力士の一人です。まず長身で腕も脚も長く懐が深い。長い腕を繰り出す突っ張り力があり、さらに、突っ張ってから四つ身になっても相撲が取れます。腕が長いとまわしに手が届きやすいメリットがあるんです。所属している部屋もいいですね。

銅谷さんのお話を聞くと、郷土出身三力士からますます目が離せなくなりそうです。本日はお忙しい中、対談にご協力いただき、ありがとうございます。

銅谷さんのお話を聞くと、郷土出身三力士からますます目が離せなくなりそうです。本日はお忙しい中、対談にご協力いただき、ありがとうございます。